

ホームページの作成による 日本語学習

米国
べい こく

ワシントン・アンド・リー大学
東洋学部日本語科助教授
とうようがくぶ にほんご がくしよきょうじゆ

氏家研一
うじ いえ けん いち

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

1 ワシントン・アンド・リー大学での日本語教育

当大学の日本語教育は1974年に始まった。初めは数人の学生で始まったが、徐々に学生数が増加し、現在は1年生15人、2年生13人、3年生6人、4年生1人、5年生1人である。筆者が2、3、4年生を、アメリカ人教師が1年生と5年生を担当している。他に常勤の助手が1人いて1、2年生の口頭ドリルをする。

授業は1、2年生は毎日1時間で年150時間、3年生以上は週3回90時間である。当大学は外国語2年学習が必修で、多くの学生は高校で勉強したスペイン語やフランス語を続けるが、日本に興味を持った学生が日本語を勉強している。1、2年生は水谷夫妻の“Introduction to Modern Japanese”を3、4年生は三浦/マグローインの“An Integrated Approach to Intermediate Japanese”を使って教えている。

当大学の特徴は、日本のものをいろいろと授業に取り入れている点である。カラオケを、聞き取りや辞書を読む練習をするために利用したり、和食のレシピ(作り方)を読む練習をした後でその料理を作ったりする。更に、最新のテクノロジーも大いに活用している。学生は1年生の初めからランゲージ・ラボで日本語のワープロを使ったり、バーコードを用いてレーザーディスクを見たり、レーザーディスクを用いてここで独自に開発したコンピュータ教材を使ったり、当大学で撮影したビデオを使って作ったコンピュータ教材で会話を覚えたりしている。教師は日本語のEメールを利用してハンドアウトを配布したり、学生とコミュニケーションをはかったりしている。

インターネットが注目されるようになってからは、3年生以上のクラスで毎週一度金曜日にランゲージ・ラボで日本語で自分のホームページを作るアクティビティを取り入れた。授業時間(12時間)家で文章を書いた



学生が作成したホームページの読み練習の風景

り間違いを直したりする時間(30数時間)など合計して約50時間もあればかなり充実したホームページができ上がる。書く練習にいいだろうと思って始めたが、予想以上に効果があり、やり方によって四技能全部が伸ばせることが分かった。コンピュータで日本語が使える環境にあれば、ホームページ作成のアクティビティは簡単なので、このレポートでは当大学で行ったホームページ作成のアクティビティの実情について報告したい。

2 ホームページ作成のアクティビティ

数年前から、インターネットで日本語のホームページを作って今までに作成した読み教材を他の日本語の先生方とシェアしてきたが(注1) 1995年秋、実験的に学生に日本語でホームページを作らせてみたら、学生の反応が非常に良かったので、1996年より正規の授業の一環として3年生と4年生にホームページ作りをさせたところ、様々なメリットがあることが判明した。このレポートでは、

1. 学生が書いたものがホームページに載るまでの過程
2. インターネットを日本語学習に使用した際の利点
3. ホームページ作りの利点
4. ホームページ作りの問題点とその解決法について論じる。



学生が直した間違いをチェックする筆者
がくせい なお まちが ひっしや

3 学生が書いたものがホームページに載るまでの過程 がくせい か の かてい

3-1. 日本語ワープロで文書を作成 にほんご ぶんしよ さくせい

ホームページ作成の最初の段階は、日本語のワープロを使って文書を作成することである。ワープロに慣れさせるためにプロセスを迫って様々な作業をさせる。初めに、長音、発音、促音などの特別な文字やカタカナ、英文の書き方などの学習をする。学生が書き方に慣れたら、次に、教師が紙に書いた簡単な文章を全く同じように書く練習をさせる。更に、「きのうバーガーキングでミルクシェーキを三つ注文しました」など片仮名の言葉、長音、促音などがたくさん入っている文を使って聞き取り練習をする。この聞き取り練習の段階で、学生の間違ひから「去年」-「享年」、「一緒」-「遺書」など長音、促音などが日本語の中で如何に重要か実例を紹介しながら説明できる。これらの段階を経て日本語を学習すれば、ワープロの使い方が上達してかなり自由自在に使いこなせるようになるばかりでなく、読む技術、書く技術、聞く技術も同時に習得できるというメリットがある。

3-2. HTML文書への変換、HTML文書の訂正 ぶんしよ へんかん ぶんしよ ていせい

日本語のワープロである程度文章が書けるようになったら、次の段階はそれがインターネットで読めるようにHTML文書へ変換する作業である。ホームページに載せるための日本語の文をワープロで書いている時には特別な技術は必要ないが、HTML文書に変換する際いくつかのコマンドを学習しなければならない。特に大事なのは、リンクを作るためのコマンド（注2）イメージを入れるためのコマンド（注3）などである。しかし、これらのコマンドは何度も繰り返し使用するので、何回か使っているうちに自然に覚えてしまう。

コマンドを入れてHTML文書ができ上がったら、それを文書を入れたり出したりするソフトを使ってインターネットで見られるようにする。インターネット上で

実際に書いた文書を見て、間違いがあったり、訂正したいところがある場合、そのソフトを使って簡単に直してまたインターネットに送れば完全なものができ上がる。

また、最近はホームページ作成用のソフトがかなり出回っているので、財政的に余裕があればそれらを購入して使うことができ、いちいちコマンドを覚える必要は全くなく簡単に作れる。

4 インターネットを日本語学習に使用した際の利点 にほんご がくしやう しやう さい りてん

4-1. 書いたものがすぐ見られ、修正・追加・削除などの変更が容易に可能 か み しやうせい ついか さくじよ へんこう いうい かのう

インターネットの最大の特徴は、ホームページ用に様々な文章を書き、書いた文章が正しいかどうかチェックする時にそれがすぐに見られることである。同じ書く作業でも、作文を書き先生に添削してもら場合は、提出してからしばらくしないと自分の書いたものが見られないが、ホームページの場合はHTML文書にしたらずにインターネット上で文書をチェックすることができる。これは、ランゲージ・ラボで学生が発音の練習をしていて先生にその場で発音を矯正してもらおうと同じで、書いてすぐその場で見られると、間違いがあった場合即座に直すことが可能になる。

もう一つの利点は、入れた静止画が気に入らない、文章に間違いがあった、バックグラウンドとテキストの色がうまく合わないなど、変更が必要になった時、簡単にできることである。この特徴は書いたものをすぐ見ることができるという上記の特徴と共に非常に重要な特徴である。変更に時間がかかるようであれば、学生が面倒臭いと感じるであろうが、簡単に変更することができて、しかも変更したものが即座に見られれば、学生の興味も持続するばかりでなくより良いものを作ろうという意欲も湧いてくる。

4-2. 自分の好きなようにデザインできる じぶん す

ホームページは作る人の好みによってそれぞれ異なる。スクロール形式にして一枚の長いものにすることもできれば、リンクをたくさん作っていろいろ違う所に行けるようにすることもできる。また、バックグラウンドやテキストの色を自分の好きな色を選んで使うこともできる。フォントを大きくして見やすいようにデザインすることもできるし、フリーウェアのグラフィックをコピーして視覚効果を高めることもできる。何か効果的なグラフィックが欲しい時には「ヤフー（Yahoo）」（注4）などの検索を利用して自分の手に入れたフリーウェアを

コピーしてホームページにペーストすることも簡単にできる。バックグラウンド、アイコン、イメージ、罫線、矢印など様々なものが無料で容易に手に入れられるので、その楽しみもホームページ作りをより興味深いものにする。この特徴は一見日本語の文書を書くことと全く無関係に思えるが、学生には重要な要素になっている。学生には他の人に読んでもらえるという気持ちがあるので、様々なグラフィックを駆使して自分のホームページをできるだけきれいなものにしようと努力する。

また、ホームページを見た人から反応をもらいたいと思ったら、自分宛の電子メールのリンクを作っておけば感想、意見、アドバイスなどがすぐもらえる。もらった日本語を読むのは生の日本語を読む練習になるし、ほとんどの場合学生が作ったホームページの内容についての話なので、学生にも分かりやすい。そこから個人的な付き合いが始まれば、授業の中での教師の日本語以外の日本語に接することにもなって学生には非常に有益である。

5 ホームページ作りの利点

5-1. 何かを作り上げたという満足感・達成感が得られる

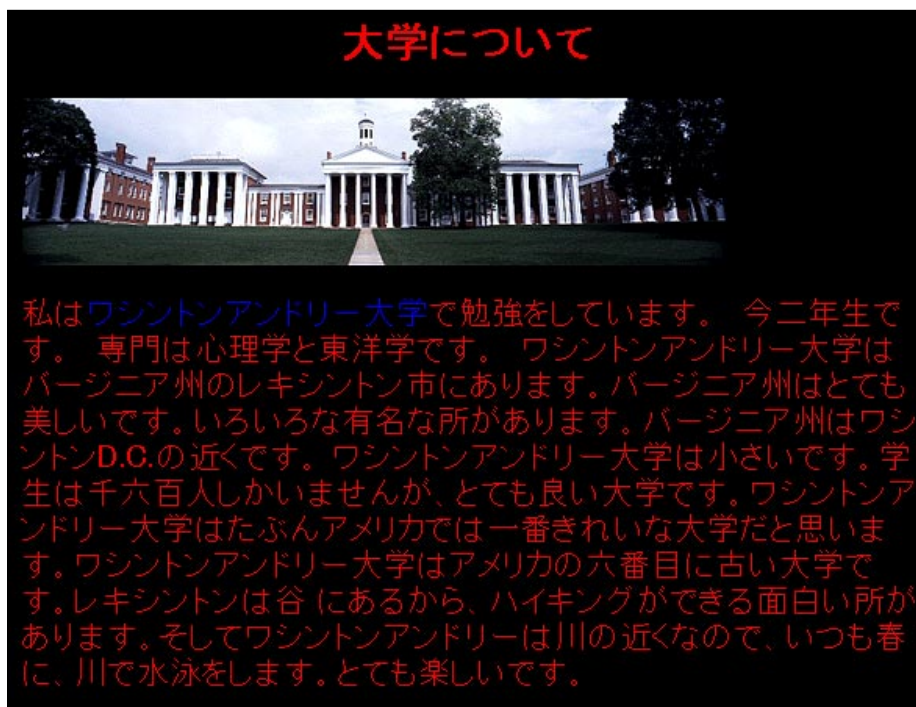
ホームページ作りを通して学生が得られる一番大きいものは、学習した文法・語彙を使って自分でまとめたものを作成したという満足感・達成感である。もちろん、スピーチを書いて発表した時や作文を書き終えた時などにもある程度満足感・達成感を感じるが、ホームページの場合は自分で作成した苦勞の結晶がインターネット上に残るので、なおさら強い満足感・達成感を感じるようだ。また、ホームページができるまでに、日本語のワー

プロが使いこなせるようになる、HTML文書を作成するためにコマンドを覚える、文書を何回も変更する、というようにでき上がるまでのプロセスがかなり長いので、自分が作ったホームページに愛着を感じるようになる。ある学生は自分のホームページが長くなるにつれて、「作る喜びが増し、もっともっと増やそうという意欲が湧いてきた」と言っていた。また、ある日本人に自分のページを読んでもらった学生は、漢字があまり多く入っていないことを指摘され意識的に漢字を使うようになり、「見た目も漢字が多くなって見やすくなった」と言って喜んでいて。苦勞して作ったページがインターネットに残って、作成したものを他の人に見てもらえるだけでなく電子メールでコメントがもらえる、などという点から大きい満足感・達成感を感じることができる。

5-2. 以前学習した基本的文型の復習が数多くできる

今年は3年生と4年生にホームページを作らせたが、学生が書いた文章の中には簡単だが極めて重要な間違いがたくさんあった。「勉強するよりデートするの方が楽しいです」「レキシントンは小さいとききれいな町です」「ワシントンDCに行きて、美術館でたくさん絵を見ました」など1、2年生で習った基本的な文法の間違いが目立った。それは、初級の段階である文法項目をあるレッスンの中で習って集中的に口頭練習をたくさんしても、その後同じ文法項目に出会うことが少なくなり、忘れてしまうためだ。間違いがあった時、普通は間違いに下線を引いて学生に直させたが、みんなに共通に見られる間違いの場合には一人の学生の間違いをコピーしてクラス

の全員に渡して自分達で直させた。ここで重要な点は、教師が間違いを指摘するだけでなく、直すということをしていない点である。教師が直すとは、学生は単にその間違いを見るだけで終わってしまい、あまり教育効果がない。多少時間がかかっても自分達でどうしてそれが間違いなのか気付かせる方がはるかに効果がある。何故だめなのか納得させた後でその文法項目を口頭でドリルをした。これは基本的な文型の復習に非常に効果がある。



学生が作成したホームページの例(1) (http://www.wlu.edu/~earthur/)

シアトルの友達

私はシアトルに三年間住んでいました。高校の一年から三年までシアトルにあるジョン・F・ケネディという高校に行って本当に面白かったです。たくさん勉強もしたし友達とカナダやキャノン・ビーチなど色々な面白い所にいきました。冬休みと春休みに毎年友達と一緒にスキーをしに行きました。夏休みの時は韓国に帰ってシアトルの友達と勉強をしたり旅行をしたりしました。私の友達はみんなソウルに住んでいるから、たびたび会いませんでしたが、でも三か月に三回ぐらい会いました。シアトルにいる私の友達はジェイ・ジェイ、ジョセフ、アーノルドの三人です。三人みんな私と同じ高校を卒業してジェイ・ジェイとジョセフはシアトルにある大学に行っていますが、アーノルドはいまオレゴン大学に行っています。今も時々電話をしたり、手紙を書いたりしますが、毎日会わないから大変さみしいです。今から私の友達のことを紹介します。

学生が作成したホームページの例(2) (http://www.wlu.edu/~dseo/)

5-3. 四技能すべてが伸ばせる

ホームページ作成の過程で書く能力が伸ばせることは明らかだが、他に読む、聞く、話すの3つの技能も伸ばすことができる。自分が書いたものを確認する作業、教師に指摘された間違いを直す作業、他の学生が書いたものを読む作業を通して読む能力が伸ばせる。更に、当大学の場合実際に自分が書いたものを分かりやすい言葉で他の学生に説明する練習もする。また、その学生の説明を聞いて質問をしたり、自分の意見を述べたりする練習もするので、この過程を通して話す能力も聞く能力も伸ばすことが可能である。

5-4. 学生主体の授業が営める

一般的に普通の日本語の授業では、教師が授業の主導権を握っていて、教師が授業の内容を準備し、ある決まったペースで授業を行う。学生は教師の質問に答える、読み物を読んで書いてある質問に答える、など教師の指示である特定の作業をする。ところが、ホームページを作る作業は、初めは教師がどんなトピックについて書けばいいか具体的な例を示すが、実際の作業をするのはすべて学生である。学生がトピックを決め、書く内容を考えて、実際に書く作業を行い、デザインなどもすべて自分で考える。学生が書いた文章に間違いが少なければ早く進むが、怠惰な学生がいて宿題をしてこなかったり、書く量が少なければそれだけペースは遅くなる。そういう場合には頑張ってもっと書くように教師が叱咤激励する。もちろん授業のペースは教師がコントロールするわけであるが、学生はさも自分が100パーセント授業をコントロールしているかのような錯覚を持つ。それで、良く準備してきて間違いが少ない時にはスムーズに流れて満足感を味わう。ところが、宿題をして来なかったり、間違いが多くある場合には遅々として進まず学生は罪恶感を感じる。いずれの場合にしても学生主体の授業になる。

6 ホームページ作りの問題点とその解決法

ホームページを作る作業には上記のように様々なメリットがあるが、もちろん問題点もいくつか存在する。

まず、大多数の学生は興味を示すが、興味を示さない学生もいる。その学生をどう指導するかが大きい問題になる。当大学の場合、学生が書けそうなトピックをこちらから上げたり、今までに他の学生が書いたものを見せたりすることによって、自分にも書ける材料を学生に選べることで解決した。

また、ホームページ作成の作業は教師の負担を増やしてしまう。当大学の場合は3、4年生はいつも多くて4、5人なので、学生が犯した間違いの訂正が簡単にできる。ところが、一つのクラスの学生数が30人などという州立大学の場合一人の教師が個々の学生の間違いを指摘しなくてはいけないので、それだけ教師の負担が増えてしまう。常に新しいことを始めると余計な負担が教師にかかるが、ホームページ作成の場合も全く同じで、現在の仕事量とホームページ作成というプロジェクトを天秤にかけて行うかどうか決めなくてはならない。

7 まとめと今後の課題

このレポートでは、書いたものがホームページに載るまでのプロセス、日本語教育でのホームページ作成の利点、教育効果、ホームページ作成の問題点について論じた。今後の課題として、ホームページを作るプロジェクトを通して実際学生の書く能力がどの程度伸びるのかを数字で明らかにすることだと思われる。学生をホームページを作るプロジェクトをした学生のグループとそのプロジェクトをしなかった学生のグループに分けて比較対照して何らかの方法で二つのグループの違いをはっきりさせる必要があるだろう。また、他の日本語教育機関でもホームページを作らせるプロジェクトを行ってお互いに情報交換ができれば、共同研究という形でもっと広範囲な研究ができるようになるであろう。

脚注

(1)http://www.wlu.edu/~kujie

(2) a href=" HTML文書の名前 " HTML文書のタイトル /a

(3) IMG SRC=" グラフィックの名前 " グラフィックのタイトル

(4)日本語のURL:http://www.yahoo.or.jp、

英語のURL:http://www.yahoo.com